

1 土寄せとネギの生育

【土寄せの目的・メリット等】

- 葉鞘を伸ばし、太さと軟白長を確保する
- 生長点（盤茎部）を暑さから守り、生育を維持する

◇**葉鞘の太さ 15 mmを目安に土寄せを開始**

- タイミングが**早い** → 十分に太りにくい
- タイミングが**遅い** → 倒伏、曲がり、首元の緩み

【土寄せによるデメリット等】

- 「土寄せ」による「根の切断」と「葉への傷」が**土壌病害（軟腐病等）、生育障害につながる**ことがある。
- ◇傷口からの病原菌の侵入を防ぐため、**土寄せしたら軟腐病等を防除**（ラベルの使用方法に従う）
- ◇**特に、高温時（7月中旬から8月：気温30度以上）は土寄せをできる限り避ける。**

2 土寄せの方法

【土寄せ：右図③～⑤】

- 畦間を管理機で歩く
- 「**手前から入って深さを確保**」
- 初回は軽めにし、寄せた土が崩れにくくなるよう横から見て**M字形**にする
- 「**M字の肩部が土留めになり土が落ちにくい**」
- 土寄せの高さは、**5～7 cm/回を3回**
- 葉の**分岐部の約2 cm下まで**（③～⑤）
- 太さが3mm程度太るのを目安に約25日間隔

【止め土：右図】

- 年内収穫では収穫の30～40日前を目安に行う
- 最終土寄せ（止め土）はネギの首元まで寄せる
- 目安：葉の分岐部の5 cm上まで（土寄せ高5～10 cm）
- 軟白長30 cm以上を確保する(目安棒を参考)

【土寄せ時には追肥も】

- 追肥目安：窒素・カリを各2～3 kg/10a程度
- 例：ファームメイト 536：15～20 kg/10a
- 追肥が適正でないと病害が発生しやすくなる
- ⇒ **過剰施肥：べと病、軟腐病**（※特に高温時は注意）

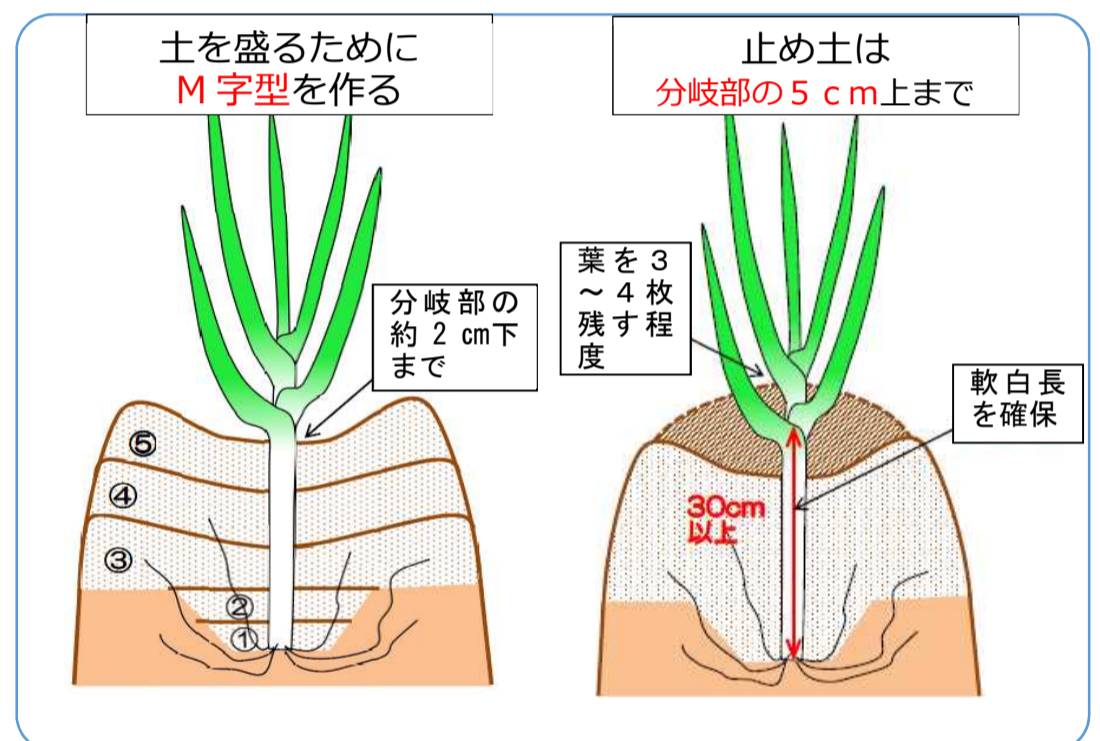
秋冬ネギの出荷規格

| 規格 | 本数 | 太さ |
|----|-----|-----------|
| 2L | 30 | 2.3cm以上 |
| L | 36 | 2.0～2.3cm |
| M | 45 | 1.7～2.0cm |
| S | 皆掛け | 1.5～1.7cm |
| B太 | 6kg | M以上 |
| B細 | | S以下 |

軟白長・調製
軟白30cm以上
むき方は成熟葉3葉を残すまでむくことを原則とする



出荷規格に合う、軟白長と太さのネギを目指します



・土寄せの目安

| 土寄せ | 葉鞘径 | 土寄せ高 |
|-----|----------|---------|
| ③ | 15～18 mm | |
| ④ | 18～21 mm | 5～7cm/回 |
| ⑤ | 21～24 mm | |
| 止め土 | 24～27 mm | 5～10 cm |

・収穫までに必要な日数

| 収穫時期 | 止め土時期 |
|------|-------|
| 11月 | 30日前 |
| 12月 | 40日前 |
| 1～3月 | 50日前 |

※土寄せ時のイメージ

・②を実施後



・③を実施後



・止め土を実施後



【台風や大雨対策】

○被害：①ネギの倒伏・葉折れ等 ②ほ場の浸水 → 生育不良・病害発生

○対策：台風前（台風通過直後の防除は困難）

①ほ場周囲に排水溝を掘る（植溝+5~15cmの深さ）

②倒伏防止のために台風前に土寄せ

- ・防鳥ネット等を用いて倒伏防止に努める
- ・特に、軟腐病が過去に発生したほ場では、台風シーズン前に、土寄せ時に使える粒剤等で薬剤防除する

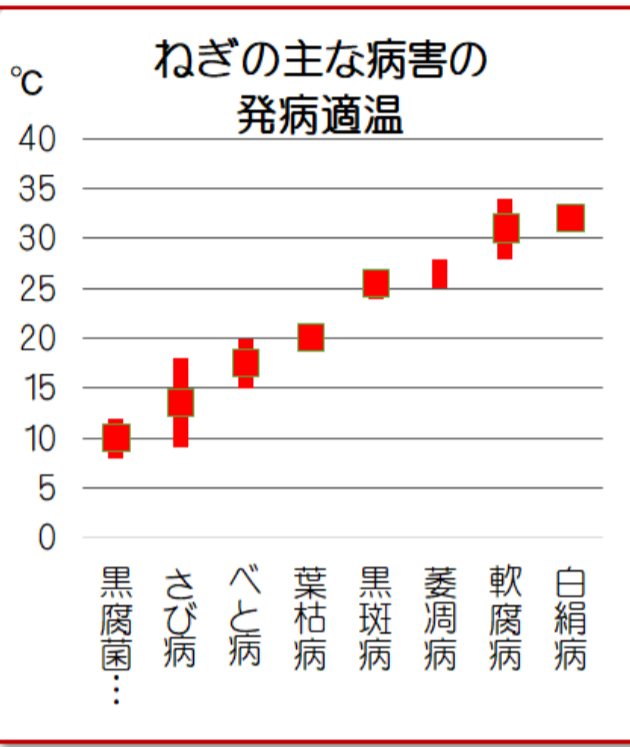
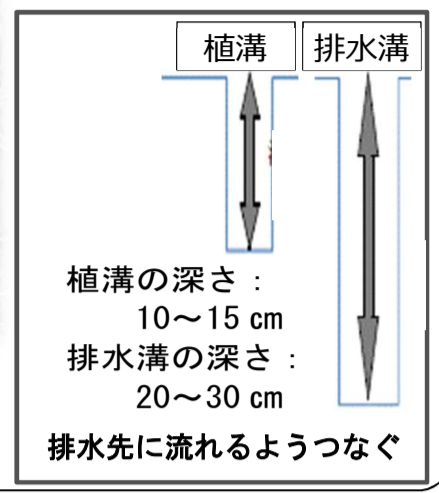
○対策：ネギや畑の状況に応じて

排水 → 中耕土寄せ → 病害防除 → 追肥・葉面散布

台風後：・排水路（明渠）の修復 ・病害防除 ・畝修復、株起こし等



**湿害に弱いため
排水路の確保を！**



病害防除：防除は予防を中心に

○今後は軟腐病に注意！ 黒斑病・葉枯病も多くなる
病害ごとに病原菌が異なるので、登録農薬を組み合わせ**て予防中心にローテーション**で防除。**発病初期の防除を徹底。**

| 糸状菌 (カビの仲間) | | | 細菌 |
|-------------|-------------|--------------------|-----------------|
| 担子菌類 | 卵菌類 | 不完全菌類 | 軟化腐敗 |
| | | | |
| さび病 赤い斑点 | べと病 葉が黄変 | 葉枯病 葉先の枯れと黄斑(右) | 腐敗病(写真) ・軟腐病 |

害虫防除：高温期は要注意！

- ※害虫は高温少雨で多発傾向。特に現在、アザミウマが多発傾向。
- ※ハモグリバエの「新系統」に注意
- ※シロイチモジヨトウは前年より5日以上早く発生し、多発予想。

- 防除は**発生初期が効果的**
- 高温期には害虫の世代交代が早まる。薬散間隔は**10日程度が目安**
- 抵抗性発達を防ぐため、**作用が異なる薬剤をローテーション散布**

| | | |
|------------------|-------------------|----------------------------|
| アザミウマ | ハモグリバエ | タネバエ タマネギバエ |
|------------------|-------------------|----------------------------|

ネギへの農薬散布における留意点

- 農薬容器の**ラベルに書かれた使用方法等を必ず確認**【使用時期、希釈倍数（使用量）、方法、回数、注意事項等】
- 複数の成分を含む薬剤は**有効成分ごとの使用回数に注意**
- 農薬使用は**必ず記録**【いつ、どこ、なに、どれだけ など】
- 付着がよくなるよう**展着剤を加え、動噴の圧を高め**に
- 使用方法に従って、**十分な量をムラなく丁寧に散布**
- ◎熱中症や薬害防止のため、**高温時の散布は避ける**

